

# 光栄の森

2019年6月 毎月1日発行 第130号  
発行者 光栄プロテック 中川

## 6月に向けて

代表取締役 三田正憲

今月も大手商社の伊藤忠商事、丹波宇一郎さんの「仕事と心の流儀」から皆さんと学びたいと思います。

**「くれない症候群」から抜け出せ。**

「何か意に沿わないことがあると、それは自分のせいではなく、上司が悪い、部下が悪い、会社が悪いと悪いのはあなた（他人）」式の考えをする人がいます。

こういう考え方をする人の多くは、「くれない症候群」に陥っています。俺が実力を発揮できないのは、上司が認めてくれないからだ。仕事がうまくいかないのは同僚（や部下）が協力してくれないからだ。自分の技術が活かされないのは会社が公正に評価してくれないからだ。もし、あなたが「くれない症候群」になっているのなら、「それは自分のせいではないか」と一度頭を切り替えてみて下さい。人間は理屈の天才です。できない理屈はいくらでも並べ立てることができます。

しかし、謙虚を振り返ってみると何よりも、自分自身に思い当たる節があるはずです。実は自分に原因があるのではないかと自問してほしい。他人の行動は変えられませんが、自分の行動は自分で変えられます。そしてそれは必ず成長するためのステップとなるはずです。」と述べられております。

又、一方このようにも述べられております。

物事（仕事）に対して常に用意と周到な準備をして計画を立てて実行する」という考えに乏しい人間は、行き当たり場当たり主義の粗雑な仕上がりしかできないものです。又、小細工の利く人間は時として役に立つかもしれませんが、その仕事には持久性がなくムラがあり、結局役に立つ仕事はできません。心機一転して物事を丁寧に考えていくと仕事も自然と立派に仕上がり見事な出来栄を見せます。つまり、人の仕事というのは、その人の人となりや人格がそこに表現されるのです。

前回、仕事を成し遂げていく成長の過程で心の鍛錬が一番難しいと述べられていました。今回もさらに難しい鍛錬ではありますが、目前にある一つ一つの仕事に対して自分の可能性を信じて真しに取り組んでいてもらいたいと思います。

又、今月は当社にとって4つ目の工場が完成致しました。24日には火入れ式も無事とり行うことができ、硫化を含む特殊仕上の専用工場として6月には本格的に運用していく予定です。それに伴い人の動きもありますが、皆さんのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。